

いちだい地域共創事業

紹介パネル展示

広島市立大学

科学と芸術を軸に世界平和と
地域に貢献する国際的な大学

国際学部

情報科学部

芸術学部

人材育成の目標

広島市立大学は、豊かな感性と真理探究への情熱を持ち、多様な文化と価値観を尊び、平和を希求する人材、さらに、幅広い知識と確かな専門性を有し、高い倫理観を持って広く社会に貢献できる人材を育成することを目標としています。



広島市立大学地域共創センターについて

■ ごあいさつ

広島市立大学は、地域の発展と地域課題の解決に資する教育研究を展開し、豊かな未来を地域と共に創りあげること、広島広域都市圏の持続的発展を目指すことを使命と考えています。

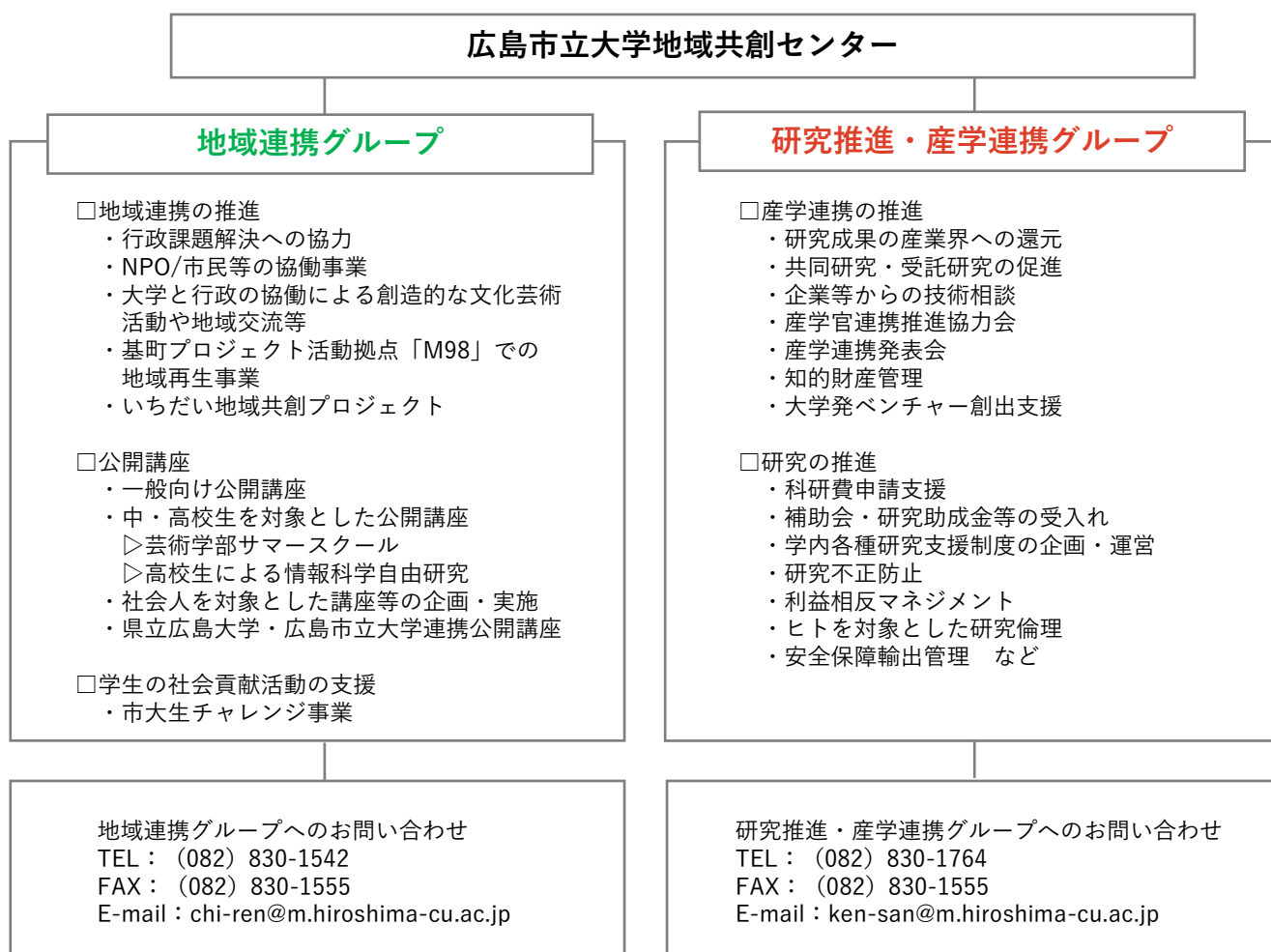
2024年4月、地域連携と研究推進を中心とした産学連携を強化し、地域共創に資する取り組みを一層着実に進めていくため、社会連携センターを改組して、地域共創センターを設置しました。

大学と社会、人と人をつなぎ、国際、情報科学、芸術、平和のそれぞれの分野で活躍する教員や学生の成果を社会に還元するための取り組みを行っています。主な取り組みとしては、産学連携の推進、地域連携の推進、研究の推進、知的財産の管理と活用、学生の社会貢献活動の支援、公開講座などがあります。

本パンフレットでは、本学の社会貢献活動の一端を紹介しております。地域や行政機関の皆様、産学官および地域の皆様に地域・社会貢献活動の取り組みを知っていただくとともに、さらなる連携のきっかけとなれば幸いです。

地域共創センター長 田村 慶一

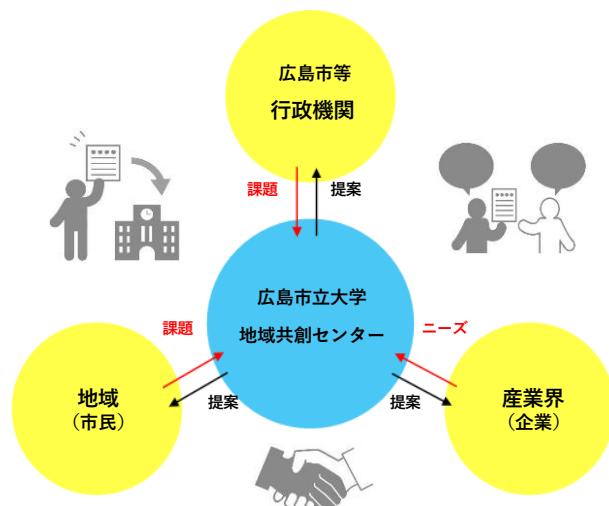
■ 地域共創センター所掌業務



■ こんなときは、地域共創センターへ

大学には教育、研究成果等の資源を活用して、市民・地域社会・企業等と連携し、地域・社会貢献を行うことが求められています。広島市立大学は、地域と共生し、市民の誇りとなる大学を目指しています。

地域共創センターは、地域の皆様、産業界の皆様と大学をつなぐ窓口です。連携事業等のお問い合わせがございましたら、本学教員とのマッチングを行いますので、お気軽にご相談ください。



芸術学部 デザイン工芸学科 視覚造形分野 受託研究

研究期間/令和4年4月1日～7月29日

広島型地域運営組織

「ひろしまLMO(エルモ)」のロゴマーク作成 (広島市)

テーマは「maybe」広島市長の想いを
講話で学び「ひろしまLMO」の理念を可視化する

【目的】
広島市では将来にわたり、地域コミュニティの活動が持続可能なものとなるよう、令和4年2月に策定した「広島市地域コミュニティ活性化ビジョン」に基づき、市民主体のまちづくりを推進する広島型地域運営組織「ひろしまLMO」の構築に取り組んでいる。各地域で周知活動に活用してもらうために「ひろしまLMO」のロゴマークを作成する。



令和5年5月10日(水)
松井広島市長講話の告知ポスター

ロゴマークのデザインは、授業の一環として取り入れ、教員の指導のもと、議論を繰り返して、1人20案を考えました。

【研究・制作留意点】

制作にあたり視覚造形分野2年生(4名)の実習として取り組んだ。松井市長の講話のあと個別に取材、さらにすでに「ひろしまLMO」認定学区の毘沙門台学区の方々に話を聞き様々な案を出し合い、大量のアイデアの中から各自の案を市役所市長公室でプレゼンテーションを行った。



令和5年6月8日(木) 広島市役所 市長公室でのプレゼンテーション。

納島 正弘(教授)/指導・統括ディレクション、中村 圭(准教授)/指導
池田優果、島崎悠希、平田真弓、山本千夏(視覚造形2年生)/デザイン制作

芸術学部 デザイン工芸学科 視覚造形分野 受託研究

研究期間/令和4年9月～12月

毘沙門台学区イメージキャラクターデザイン

毘沙門台学区社会福祉協議会

地域のコンテンツを活かし愛されるキャラクター
で活性化のお役に立てる

【研究・制作留意点】

制作にあたっては、モチーフは毘沙門天の使いとされるトラをキャラクター化し、様々な媒体に使用することが望ましいため、ポーズを変えたタイプを多数制作しました。

【目的】

毘沙門台学区社会福祉協議会様からのご依頼。
地域のキャラクターをデザインをして、子供たちにも地元を愛する心を育みたい。



納島 正弘(教授)/統括ディレクション
大道寺 ダニカ(研究協力員)/デザイン制作、入稿作業等全般

芸術学部 デザイン工芸学科 視覚造形分野 受託研究

研究期間/令和2年12月22日～令和3年3月31日

広島広域都市圏28市町のロゴマークのデザイン

市花、町花をアイキャッチに28の市町を彩る

【目的】

広島都市圏構想のPR等に活用するため、圏域の特性等を活かしたロゴマークを28市町分を制作する。

【研究・制作留意点】

28市町の特徴を一つで表すには市町が制定している「花」をあしらうことにより、全体の統一感を出した。

広島都市圏構想ロゴ基本パターン



カラーリング: 暖色を主に使用しています。ゴールドには、魅力ある街に住む自信や高揚感、オレンジには温かみや親しみやすさを連想させ、200万人広島都市圏構想が身近なものであることを表現しています。大きく占めているレッドは、情熱や活動的な強さを連想させます。

デザイン: 半円や直線が重なり合う箇所の色が多彩に変化し、200の文字を作り上げることで、各市町それぞれの個性が有ながらも共通している表を表現しています。

納島 正弘(教授)/統括ディレクション
浮田 実佑(協力研究員)/デザイン制作



芸術学部 デザイン工芸学科 視覚造形分野 受託研究

研究期間/令和6年5月～令和6年6月

広島広域都市圏 飯南町、川本町のロゴマーク

町花をアイキャッチに2町を彩る

【目的】

令和2年に広島都市圏構想のPR等に活用するため、圏域の特性等を活かしたロゴマークを28市町の花をシンボルに28種のロゴをデザインした。
今回、新たに広域都市圏に加わった飯南町・川本町のロゴマークを制作した。

【研究・制作留意点】

2町の特徴を一つで表すには市町が制定している「花」をあしらったが、他の市町と重複もあり、ディテールや色彩での明暗対比による調整を行った。

広島都市圏構想ロゴ基本パターン



令和2年に制作した広島市のロゴ



牡丹をあしらった
飯南町のロゴ



唐月をあしらった
川本町のロゴ



納島 正弘(教授)/デザイン指導・統括ディレクション
山本 千夏(視覚造形3年)/デザイン
※併し令和2年度の28市町のデザインは、浮田 実佑(当時研究協力員)

■ 基町プロジェクト

「基町プロジェクト」は、2013年7月に広島市が地元住民と連携しながら策定した「基町住宅地区活性化計画」に掲げている「基町アートロード、アートによる魅力づくり」の実現を目指す取り組みです。

若者が主体となった創造的な文化芸術活動や地域交流を通じて、まちの魅力づくりや、基町住宅地区の活性化を目的とします。

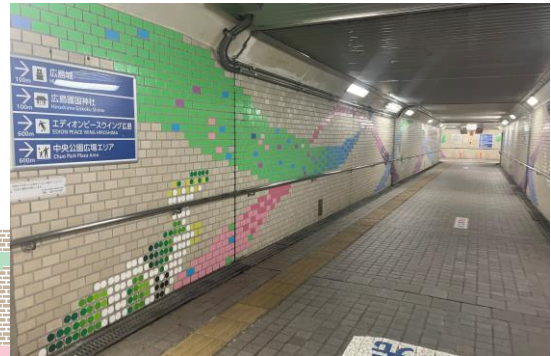
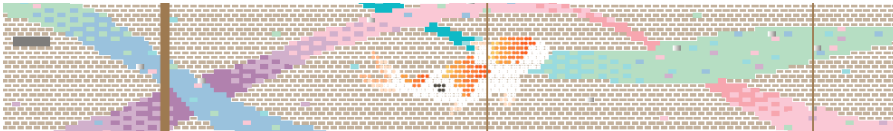


基町プロジェクト
ホームページ



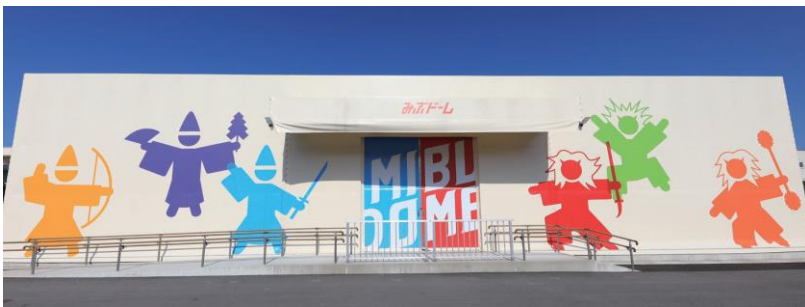
■ 広島城地下道美装化

広島城の魅力向上の一環として、令和4・5年度の2か年をかけて、紙屋町方面から広島城表御門への主要アクセスルートである「城南地下道」の美装化に取り組みました。デザインの作成や設計・施工は、本学と広島市と連携した地域貢献事業として実施しており、本学学生等の作業により広島の水の流れと鯉をモチーフとした美装化が完成しました。今回の美装化で、魅力的な動線が形成され、回遊性・アクセス性が向上することが期待されます。



■ 体育施設の壁画デザイン（受託研究）

北広島町壬生の医療施設内の体育館壁面を地域に親しまれるデザインで彩る



地域住民の健康増進を目的に建設された医療法人の体育施設の壁画デザインを行いました。制作にあたっては、現地の地域性(風土・文化・歴史)を表現するために調査し、さらにスポーツ施設に相応しいアクティブなイメージも加えることに留意し制作し、芸術視覚造形の学生2名がデザイン2案ずつ出し合いました。依頼主による選考でデザインが決定されました。

■ 大学と企業のコラボレーション

企業と共にデザインの共創ゼミを開講

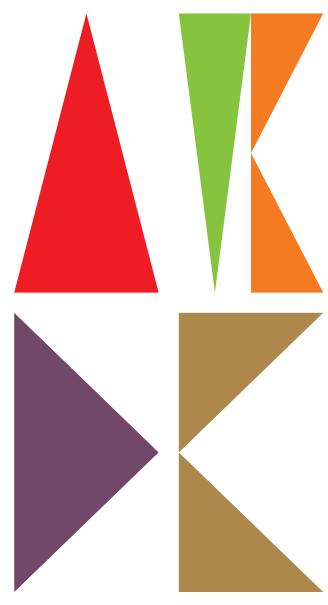
2017年度から、マツダ株式会社デザイン本部の担当者の指導を仰ぎながら、工業デザインとモノづくりの精神を学んでいます。年ごとにテーマを変えて、実用的な作品を制作し、発表しています。また、2022・2023年度には、アサヒグループジャパン株式会社と、同社が広島県内に所有する「アサヒの森」をテーマに、森の大切さを啓発することを目的とした共同ゼミを開講しました。2022年度は間伐材によるプロダクトの開発、2023年度は環境学習のデジタルコンテンツを制作し、今後小学校の授業などに使われます。



マツダ共創ゼミ



アサヒグループ共創ゼミ



地域展開型 芸術プロジェクト

Practical education of arts in Hiroshima
2020-2023

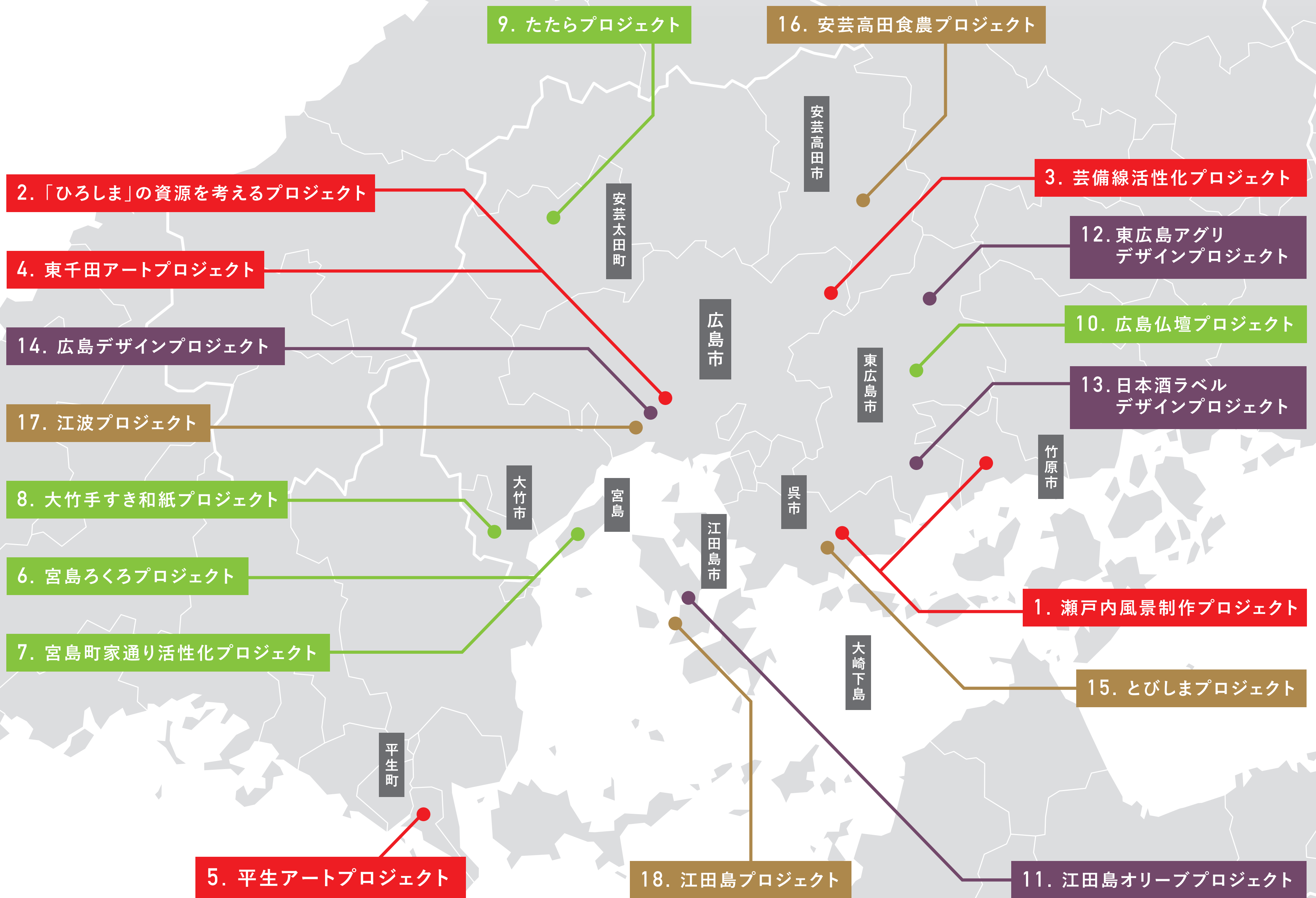
広島広域都市圏



芸術教育



地域貢献



地域×アート

プロジェクト	実施年
1 瀬戸内風景制作プロジェクト	2022-2023
2 「ひろしま」の資源を考えるプロジェクト	2022-2023
3 芸備線活性化プロジェクト	2021-2023
4 東千田アートプロジェクト	2022-2023
5 平生アートプロジェクト	2023 -

地域×デザイン

プロジェクト	実施年
11 江田島オリーブプロジェクト	2020
12 東広島アグリデザインプロジェクト	2021-2023
13 日本酒ラベルデザインプロジェクト	2023
14 広島デザインプロジェクト	2020

地域×伝統工芸

プロジェクト	実施年
6 宮島ろくろプロジェクト	2020-2023
7 宮島町家通り活性化プロジェクト	2022
8 大竹手すき和紙プロジェクト	2020-2023
9 たたらプロジェクト	2022
10 広島仏壇プロジェクト	2021

地域×コラボレーション

プロジェクト	実施年
15 とびしまプロジェクト	2020-2023
16 安芸高田食農プロジェクト	2022
17 江波プロジェクト	2023-
18 江田島プロジェクト	2021



リーダー人材を育てる本学独自のプログラム 市大塾

■市大塾

2017年に創設。正式名称は広島市立大学塾。
リーダー人材を育成する本学独自の正課外の教育プログラム

目的：リーダーシップに関する能力、資質、行動力を養う。
塾生数：現在は第6期8名（第5期までの修了者は55名）
活動：1年間、平和、人権、地域をテーマに、学内外で約30回の活動を行う。学部・学年を越えた本音のディスカッションや現場での体験を通じ、リーダーとしての高い社会性や倫理観を培い、人間力とは何かについて学んでいる。
担当：若林真一（学長・塾長）、國本善平（特任教授・副塾長）



第6期塾生

■修了生の声 -市大塾最終レポートより-



第5期修了
河野 光
(情報科学部)

◆Voice◆

リーダーとは何か。人には得意なこと、苦手なことがあると思う。それを補い合うのが人間というもので、リーダーはそこを見抜いて、全員が得意な分野で輝けるようにしてあげる人だと思う。それには経験とある程度の知識も必要で、1年間、市大塾で目にして経験した実体験をこれからの将来に生かしていきたい。



第5期修了
松崎 琴星
(国際学部)

◆Voice◆

私が市大塾で学んできた1年間という期間は実りあるものだった。特に、地域リーダーと出会い、生かしていきたいことがあった。それは、物事を多面的に捉えること、そして何事も知ろうとすること、そして自分に対して深堀をしてみるということである。身近に活躍する彼らだからこそ、このようなことを学ぶことが出来たのだと思う。



第5期修了
林 莉子
(国際学部)

◆Voice◆

リーダーシップには、自身の思いをどれだけ貫き、どれだけ人に働きかけられるかということが重要だと感じるようになった。そのやり方は十人十色で、誰のやり方が良いという答えは一概には言えない。だからこそ、まず自分のやりたいことに真摯に向き合うこと、そして、それを行動に移すために自分自身の性格を活かすことが求められていると学んだ。

■リーダーの段階

社会をリードする (Lead the Society)

人々をリードする (Lead the People)

他者をリードする (Lead the Others)

支援・分担する (Followership)
(Shared Leadership)
(Servant Leadership)

自らをリードする (Lead the Self)

市大塾の対象範囲



被爆体験証言を考える（広島平和研究所四條准教授）



似島の戦跡と平和資料館を訪ねる



リーダーシップ概論



玉田陽子さんの伝え方講座



チャレンジする生き方（ひろしまジン大学平尾氏）



回天記念館と訓練場跡を訪ねる（周南市）



ビブリオバトル@市大塾



学生が自ら選定した課題や地域などから提案されたテーマに基づき実施する社会貢献活動を支援することにより、学生の豊かな人間性を育み、さらに自主性や問題解決能力を養成することを目的として、プロジェクトを実施するグループに対し補助金を交付します。

▶2023年度採択事業

01 みんなのバス

代表者：芸術学研究科 博士前期1年 ジョン・テヨン
 構成員：7名
 アドバイザー：芸術学部 教授 吉田 幸弘
 芸術学部 准教授 中村 圭

【目的】
 バス停の位置および路線図を利用者の立場から考察し、調査・改善を通じてバスの利便性を向上させ、より豊かな生活環境に貢献する。



02 大崎上島・豊島の方々と地元の素材で草木染め体験

代表者：芸術学部 2年 川口 春
 構成員：4名
 アドバイザー：芸術学部 講師 今野 健太

【目的】
 救世軍豊浜学寮（児童養護施設）で生活する子ども達に、普段経験することが難しい草木染体験を一緒に行い、「美術」を通じた交流を図り子ども達の思い出作りに貢献する。
 2022年度からの繋がりである大崎上島地区の方々と継続的な活動を行うことで新たな地域課題を探る。
 ○2022-2023年度採択事業



03 地域活性化のための情報格差をなくす 掲示板アプリケーションの開発

代表者：情報科学研究科 博士前期1年 山崎 陽介
 構成員：3名
 アドバイザー：情報科学研究科 教授 弘中 哲夫

【目的】
 閲覧板+αの機能をもち、「簡単」に操作が可能な掲示板アプリ"CocBan"（コクバン）を開発することで、広島市が掲げている「地域コミュニティ活性化ビジョン」の推進を図る。
 ○2023-2024年度採択事業



04 耳の不自由な人や外国人向けの字幕表示システム

代表者：情報科学部 4年 リュウ・シャン
 構成員：3名
 アドバイザー：情報科学研究科 助教 森 康真

【目的】
 紙芝居は、日本特有の文化であり、身近で気軽なパフォーマンスである。これまで耳の不自由な人や外国人の人への対応はあまり行われておらず、アドリブ等の字幕表示は難しいという課題がある。
 人工知能の技術を使って、日本語や外国語で字幕表示し、ユニバーサルデザインの紙芝居の実現に貢献する。
 ○2023-2024年度採択事業



いちだい地域共創プロジェクト



いちだい地域共創プロジェクトは、本学の教職員や学生が地域の関係者等と協働して、地域社会が直面する課題の解決に取り組むことで、広島広域都市圏およびその周辺地域の地域活性化と持続的発展に貢献することを目的として、2022年度から始めた事業です。



▶2023年度採択事業

01 カープミュージアム設立プロジェクト

課題提案地域団体：カープミュージアム設立プロジェクト
代表教員：国際学部 教授 吉田 晴彦



【活動の目的】

原爆からの復興の象徴となった広島東洋カープ草創期の歴史を後世に語り継ぐことのできる本学学生を、カープかたりべの会と協力しながらの育成。活動を通じ、広島のもう一つの平和のシンボル・カープにまつわる歴史を学びながら、既に広島市が所有する球団草創期の貴重な資料を活用し、さらには地域の更なる活性化につながるミュージアム建設を中期的な目標とする。市民の機運を盛り上げるための企画を運営・実施しながら、ミュージアム建設の可能性を検討していく。そのために、各学部生の強みを生かした創意工夫、グループ内・グループ外のコミュニケーション能力の向上、企画立案能力の育成を目指す。

02 広島湾岸トレイル構想事業 山歩きの魅力と効能の考察とPRツールの制作

課題提案地域団体：広島湾岸トレイル協議会
代表教員：芸術学部 准教授 藤江 竜太郎



【活動の目的】

広島湾岸の山・川・街・海・島を越えて、瀬戸内の絶景を友に歩く山旅！世界でも類を見ない都市隣接周回型の広島湾岸トレイルは、4市5町にまたがる陸路291.9km！市民が立ち上げ開発し、市民が維持管理・運営を行っているが、広島湾岸トレイル協議会の所属団体の多くは、比較的高齢の方が担っており、整備や運営の継続性が懸念されています。本学学生が広島湾岸トレイルを体験し、若者目線で発見した魅力をPRツールで表現することにより、若者やファミリー層に活用され、ひいては山道の整備やイベントの運営等にも興味を持ってくれる人が増加することを目指す。

○2023-2024年度採択事業

03 熊野町つなぐプロジェクト

課題提案地域団体：熊野町つなぐプロジェクト
代表教員：教育基盤センター 特任講師 三上 賢治



【活動の目的】

広島県安芸郡熊野町には豊かな自然環境やアウトドアなどの多目的施設が豊富にあるが、町民の認知度が低く、利用もほとんどない。また、熊野町へ移住した住民の多くが、熊野の自然環境を気に入り移住を決めた重要な要素の1つに上げており、地域住民からも、アウトドア用品を揃える負担や準備などやり方がわからないものの「やってみたい」という意見が多くある。熊野町の自然環境・アクティビティ施設を、さらに多くの人に楽しんでもらい、地域の「人と人」や「人と場」がつながる環境づくりを行う上で、まずは熊野町に点在する自然やアクティビティ資源の見える化・発信を今年度の目的とする。

○2023-2024年度採択事業

04 竹原市の観光資源である「大久野島」の地域連携活性化事業

課題提案地域団体：TAKEHARAフロティアプロジェクトチーム
代表教員：情報科学研究科 准教授 島 和之



【活動の目的】

竹原市の「大久野島」では、コロナ禍前には多くの観光客が訪れ、うさぎをはじめとした「大久野島」の環境を楽しみながら、有意義な時間を過ごされてきた。しかし、コロナ禍により観光客が減少し、市としても大きなダメージを受けてきた。その反面、人の往来が少なくなり、島の環境が改善した。また、うさぎの健康状態が改善したという、良い面もみられてきた。
そこで、大久野島のうさぎや海ほたるなどの自然環境や毒ガス工場の歴史を伝える映像を作成し、環境保護や平和について考える。

05 だんばらのえんこうさん

課題提案地域団体：段原おやじの会
代表教員：芸術学部 講師 城井 文



【活動の目的】

段原地域は再開発が落ち着いてから数十年が経過し、過去の状況を知らない住民が増えているため、住民が楽しく暮らし、移り住む人とも交流できるようにするには、自分の町に愛着が必要だと考える。
地域への愛着を醸成するための手段として、段原本を制作したが、第二弾は絵本にし、猿猴川の河童をモチーフにしたあらすじがあるので、それを題材として絵を描き、過去の写真や解説を挿入するなどを構想している。
地域住民と若い学生が、まちづくりと本づくりを考える中で交流し、お互いの知識やアイデア交換を目的とする。

○2023-2024年度採択事業

06 コロナ禍でも健康体操で交流したい。もっと。

課題提案地域団体：比治山学区社会福祉協議会
代表教員：情報科学研究科 准教授 岩根 典之



【活動の目的】

コロナ禍など、対面活動が制限される事態になったとしても、健康維持のための活動（百歳体操、交流など）を止めることなく持続できる環境の在り方を模索する。そして試行錯誤しながら、心理面と身体面から健康の維持促進を可能にするよう対面からオンラインまでカバーする楽しいハイブリッド環境の展開普及を目指す。また、見守りなどのため、このプロジェクトをきっかけとしてスマートフォンを活用できる高齢者を増やす。

○2022-2024年度採択事業

07 アーティストのために整備した「AIR Hiroshima Studio」と「AIR Hiroshima Gallery」の活用による地域の文化・芸術の振興への寄与

課題提案地域団体：横川エリアマネジメント連絡協議会
代表教員：芸術学部 准教授 石谷 治寛



【活動の目的】

横川エリアマネジメント連絡協議会は2020年に4つの市営店舗を借り受け、そのうち2つの場所を改装し、「AIR Hiroshima Studio」と「AIR Hiroshima Gallery」の2つの空間を整備した。
スペースの積極的活用を目指し、地域で活動する創作者や市民から指導を受けながら、文化・芸術の振興が可能な場所として国際的に周知していくことを目指す。

○2022-2024年度採択事業

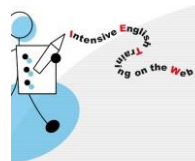
市民を対象とした公開講座

社会全体の生涯学習ニーズの高まりのなかで、大学は身近な生涯学習機関としての役割も求められています。広島市立大学では、こうしたニーズに応えていくため、その専門性を生かし幅広い層を対象とした公開講座を積極的に開催しています



国際学部

- ・「国際交流・協力の日」と連携した公開講座
- ・市大英語eラーニング講座
- ・特別公開講座
- ・「国連UNHCR協会」と連携した講座



情報科学部

- ・高校生による情報科学自由研究
- ・一般向け公開講座(講演会)
- ・地域産業の実践IoT人材育成プログラム
- ・いちだいサイエンスパーク



芸術学部

- ・公開講座(一般向け)
- ・サマースクール(中・高校生向け)
- ・社会人講座(通年コース/工芸・版画)



県立広島大学・広島市立大学連携公開講座

- ・「ひろしまを考える」
- ・「世界を知る」



広島平和研究所

- ・連続市民講座
- ・研究フォーラム
- ・国際シンポジウム



グローバルに核被害をとらえ直す ——いま改めて『ノーモア・ヒバクシャ』

Victims of Nuclear Weapons in Global Contexts:
Appealing — “No More Hibakusha” Now



先着450人

入場無料
《事前申込不要》

日時 2024年11月30日(土)
13:30~16:30 (開場13:00)

会場 広島国際会議場
地下2階 ヒマワリ
広島市中区島町1番5号 平和記念公園内

主催／広島市立大学広島平和研究所
中国新聞社
長崎大学核兵器廃絶研究センター
後援／一般社団法人ヒロシマ平和研究教育機構

- 基調講演者 ロバート・ジェイコブズ (広島市立大学広島平和研究所教授)
- 報告者 伊東 英朗 (映画監督・テレビディレクター)
瀬戸 麻由 (核政策を助けた広島若者有権者の会(カワカ広島)メンバー)
鈴木 達治郎 (長崎大学核兵器廃絶研究センター教授)
森田 裕美 (中国新聞社記者)
- モデレーター 梅原 李茂 (広島市立大学広島平和研究所教授)

第五福竜丸被爆から70年の節目である2024年は、映画「オッペンハイマー」が話題となり、人類初の核爆発だったトリニティ実験にも改めて注目が集まりました。冷戦期から核保有国は長年、核実験を繰り返してきましたが、放射能汚染による被害を知りながら、犠牲を強いてグローバル・ヒバクシャを生み出したことの重い指摘もあります。本シンポジウムでは、核兵器に何らかの有用性を見出そうとする動きに対して、戦時、平時を問わず「使ってはならない」という規範をいまい、どうやって強化するかという問いに向き合い、グローバル・ヒバクシャとの連帯から核廃絶につながるための糸口を探ります。



広島市立大学広島平和研究所 (HPI)
中国新聞社ヒロシマ平和メディアセンター
長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA)
http://www.peace.hiroshima-cu.ac.jp/
http://www.hiroshimapeacemedia.jp/
http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/

【国際学部】

広島市立大学国際学部 公開講座 国際フェスタ2024事業 平和文化月間

パレスチナ/イスラエルの紛争を多角的にとらえる

2024.11.24
13:30~15:30
※時間は変更となる場合があります

広島国際会議場 ダリア
広島市中区中區町1番5号地下2階

2023年10月以降、パレスチナのガザ地区で虐殺と人道危機が続いています。ガザは広島市の安佐北地区ほど面積が狭い場所ですが、ここから起きている出来事に多くの国々が関わり、世界各地の市民に当事者意識を抱かれています。なぜ、どのようにパレスチナ/イスラエルの問題は世界とつながっているのでしょうか。それぞれの専門分野からの講演を通じてこの問題について多角的にとらえ、その背景や世界的なインパクトについて考えたいと思います。

- 講師 コーディネーター 田邊 亜央江 (広島市立大学国際学部教授)
- 講師 上尾 真道 (広島市立大学国際学部教授)
- 講師 大田 育子 (広島市立大学国際学部教授)
- 講師 上尾 真道 (広島市立大学国際学部教授)
- 講師 大田 育子 (広島市立大学国際学部教授)

お問い合わせ 公立大学法人広島市立大学 地域共創センター
〒731-3194 広島市安佐南地区大塚三丁目4-1 TEL: 082-830-1542 E-mail: chi-ren@hiroshima-cu.ac.jp
FAX: 082-830-1555 http://www.renki.hiroshima-cu.ac.jp/

基調講演者 Keynote Speaker



ロバート・ジェイコブズ

(Robert Jacobs, Professor, Hiroshima Peace Institute, Hiroshima City University)

報告者 Speakers



伊東 英朗

(Hidetsugu Ito, Documentary Film Director and Television Director)



瀬戸 麻由

(Mayu Seto, Member of Kakushu Hiroshima)



鈴木 達治郎

(Tatsujiro Suzuki, Professor, Research Center for Nuclear Weapons Abolition, Nagasaki University (RECNA))



森田 裕美

(Hiroshi Morita, Writer of the Chugoku Shinbun)



モデレーター

(Toshiya Umehara, Professor, Hiroshima Peace Institute, Hiroshima City University)



梅原 李茂

(Toshiya Umehara, Professor, Hiroshima Peace Institute, Hiroshima City University)

映画 「サイレント・フォールアウト」 事前上映会
上映時間 11月30日(土) 午前10:30~11:46 (開場: 午前10:00)
会場 中国新聞社(広島市中区土橋町1-1)
※本社の1階の正面玄関にお越しください。係員が会場へご案内します。
シンポジウムの聴講希望者を対象に、上映会を行います(76分)。
上映会のみ、事前申し込みが必要です。11月11日(日)締切(必着)
メール、ファクスのいずれかで申し込みください。メール: peacemedia@chugoku-np.co.jp ファクス: 082-236-2807



【情報科学部】

広島市立大学 情報科学部 公開講座

講演会

2024.12.13 FRI. 18:30~20:30

会場 広島市立大学 サテライトキャンパス 対面/オンライン
広島市中区大手町西丁目1番1号 大手町平和ビル9階 ハイブリット開催

LECTURE 01

医用画像で観る、診る、見る 生体機能情報

情報科学研究科 医用情報科学専攻
松本 圭一教授

CTやMRで代表される医用画像は、疾患の診断、治療方針の決定、治療効果および経過観察のいずれにおいても大きな役割を果たしています。なかでもPETはアルツハイマー認知症と他の認知症を鑑別し、新しい治療薬の適応を判断できるため注目されています。本講演では、PETで得られる生体機能情報について紹介するとともに、医用画像の情報を生物学的指標であるバイオマーカー(定量的画像バイオマーカー)とする試みについても紹介します。

対象 どなたでも

定員 120名(先着順) 対面40名 オンライン80名

受講料 無料 ※受講に係る諸料金はご自身の責任となります。

Zoomの入手 オンライン受講の方はミーティングIDとZoomクライアントを次のURLからダウンロードし、お申し込みください。
またはスマートフォンからインストールしていただく。
※Zoom利用や受講に係るインターネット環境等について、個別のサポートはいたしませんので、ご了承ください。
https://zoom.us/download

LECTURE 02

人工知能から 深層学習への発展

情報科学研究科 知能工学専攻
鎌田 真教授

近年、人工知能(AI、特に深層学習(Deep Learning)と呼ばれる技術の性能が著しく向上し、様々な産業での活用が期待されています。大量のビッグデータを学習し、人間のような知的な手算や判断を可能にする深層学習について、本講演ではまず概要を説明するとともに、本研究で開発した深層学習モデルとして、医療画像の診断支援、コンクリートひび割れ検出、土砂災害における経路探索などの応用事例を紹介します。

申込方法 WEB申込

二次元コードまたは次のURLの「申込フォーム」に入力してください。

●2024年11月1日(金) 申込開始●

申込締切日 2024年12月5日(木) 17時まで

https://forms.office.com/r/cw8rDuH6c

講演会についてのお問合せ・お申込み
公立大学法人広島市立大学 地域共創センター
〒731-3194 広島市安佐南地区大塚三丁目4-1 TEL: 082-830-1542 FAX: 082-830-1555
E-mail: chi-ren@hiroshima-cu.ac.jp



受託研究 「堤平神社 奉納額絵推定復元模写」

—研究内容と制作工程—

広島市立大学 芸術学部 美術学科 日本画研究室

〔監修〕芸術学部准教授 荒木 亨子

〔制作〕「天岩戸図」 芸術学部後期博士課程3年 松川 華子

「一ノ谷の戦」芸術学部後期博士課程3年 村上 明花里

〔調査撮影〕芸術学部photo studio 橋本 健佑



「一ノ谷の戦／平敦盛 熊谷直実」推定復元模写 完成図

2022年堤平神社（広島市安佐南区東野）の遷座の機に依頼を受け、奉納額絵「天岩戸図」と「一ノ谷の戦い」の模写制作を行いました。原本は明治初期の作と考えられ、額には地域の氏子連名で奉納されたことが記されています。経年変化による剥落・褪色が進み図像の大半が失われていましたがデジタル撮影調査によっておよその図像を導き出しました。細部や描画方法については資料や近隣地区、同時代の類似作品を調査検討の上制作しています。今回板絵彩色指導に中村寿生先生（文星芸術大学 准教授）、鏡板作成に宮大工の三村康久棟梁（康和建工株式会社）にご協力頂きました。

模写制作の作業工程

本作品は板絵著色です。基底材となる木材は気温や湿度で収縮・膨張が起こります。4枚の杉板は吸付棧（伸縮を逃しつつ反りを止める構造）で組み付けられており、絵具の剥落、損傷の原因となる亀裂や反りを防ぎます。鏡板制作：康和建工株式会社

1. 原本調査

埃、汚れを慎重に落とす
絵具の種類、状態、破損箇所など確認

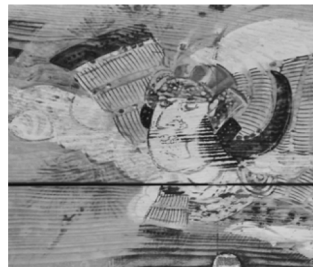


原本「一ノ谷の戦い」

2. 撮影調査

- a. 赤外線撮影 墨などのカーボンが写る
- b. 紫外線撮影 絵具など素材に反応
- c. 斜光撮影 凸凹を大きく拾う

これらの撮影画像を総合し元の図像や用いられた絵具を推定する



a.



b.



c.

3. 調査から原寸大の下図を作成

各種撮影から輪郭を拾い、欠落した部分は類似作品の調査や資料をもとに作成

板にドーサ引き（滲み止め）→ 下図転写 → 骨描 と進める



4. 彩色

彩色途中：胡粉下地・墨・辰砂



5. 完成（左上完成図）

彩色完了後、額を付けて完成

受託研究 「堤平神社 奉納額絵推定復元模写」

—研究内容と制作工程—

広島市立大学 芸術学部 美術学科 日本画研究室

〔監修〕芸術学部准教授 荒木 亨子

〔制作〕「天岩戸図」 芸術学部後期博士課程3年 松川 華子

「一ノ谷の戦」芸術学部後期博士課程3年 村上 明花里

〔調査撮影〕芸術学部photo studio 橋本 健佑



「天岩戸図」推定復元模写 完成図

2022年堤平神社（広島市安佐南区東野）の遷座の機に依頼を受け、奉納額絵「天岩戸図」と「一ノ谷の戦い」の模写制作を行いました。原本は明治初期の作と考えられ、額には地域の氏子連名で奉納されたことが記されています。経年変化による剥落・褪色が進み図像の大半が失われていましたがデジタル撮影調査によっておよその図像を導き出しました。細部や描画方法については資料や近隣地区、同時代の類似作品を調査検討の上制作しています。今回板絵彩色指導に中村寿生先生（文星芸術大学 准教授）、鏡板作成に宮大工の三村康久棟梁（康和建工株式会社）にご協力頂きました。

模写制作の作業工程

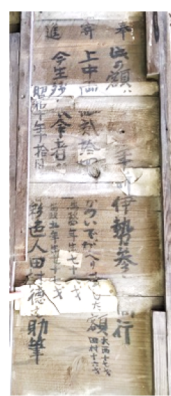
本作品は板絵着色です。基底材となる木材は気温や湿度で収縮・膨張が起こります。4枚の杉板は吸付棧（伸縮を逃しつつ反りを止める構造）で組み付けられており、絵具の剥落、損傷の原因となる亀裂や反りを防ぎます。鏡板制作：康和建工株式会社

1. 原本調査

埃を慎重に落とし、絵具の種類、破損箇所など確認
裏面に奉納の記録も確認



原本「天岩戸図」埃払い



裏面 墨書

2. 撮影調査

・斜光撮影：凸凹を大きく拾う撮影方法
撮影画像と類似作品を総合し元の図像を推定



「天岩戸図」左端火焰飾り部分
斜光撮影



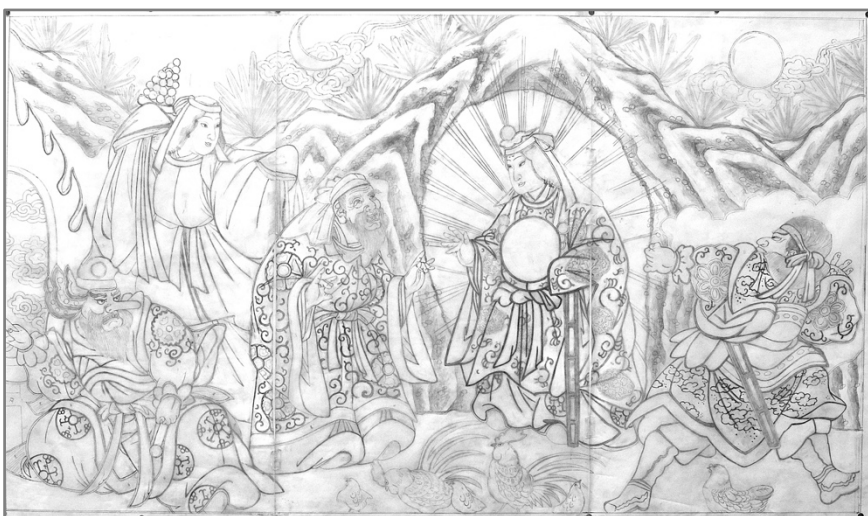
「天岩戸図」植物描写跡部分
斜光撮影



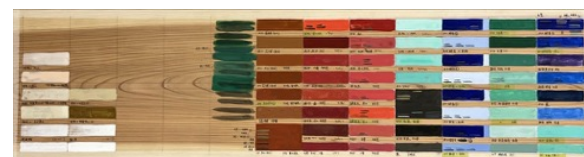
類似作品 火焰飾りと植物描写部分
稗田神社「天岩戸図」より

3. 調査から原寸大の下図を作成

およその輪郭を写し欠落した部分は類似作品や資料をもとに作成



4. 彩色



色見本（色の重ねや配色を検討）



彩色途中

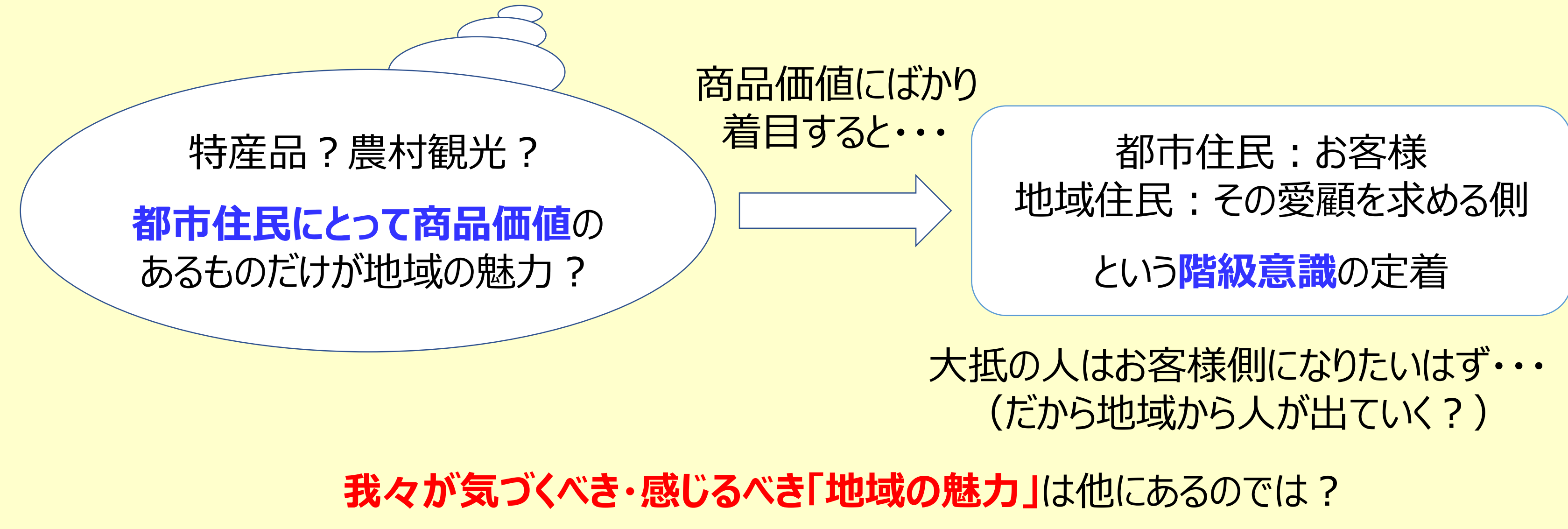
5. 完成（左上完成図）

農村地域の将来に対する住民の心の内と真の地域の魅力への接近

安部夏輝・石田結衣・石田美月・伊藤みるく・今久保滯・蔭佐来未・桑田朋香・小林優翔・駒坂有紀・佐々木梨央・貞兼玲桜華・田儀千尋・利光舞・内藤野々香・長尾真心・中佐古望美・藤田那乃羽・山内健生・山口紗果・戌徳紗英・加藤香華・四方萌音・鈴木水結・中本汐音・福本愛菜・藤田理紗子・前田日向・松田未優・山根史博

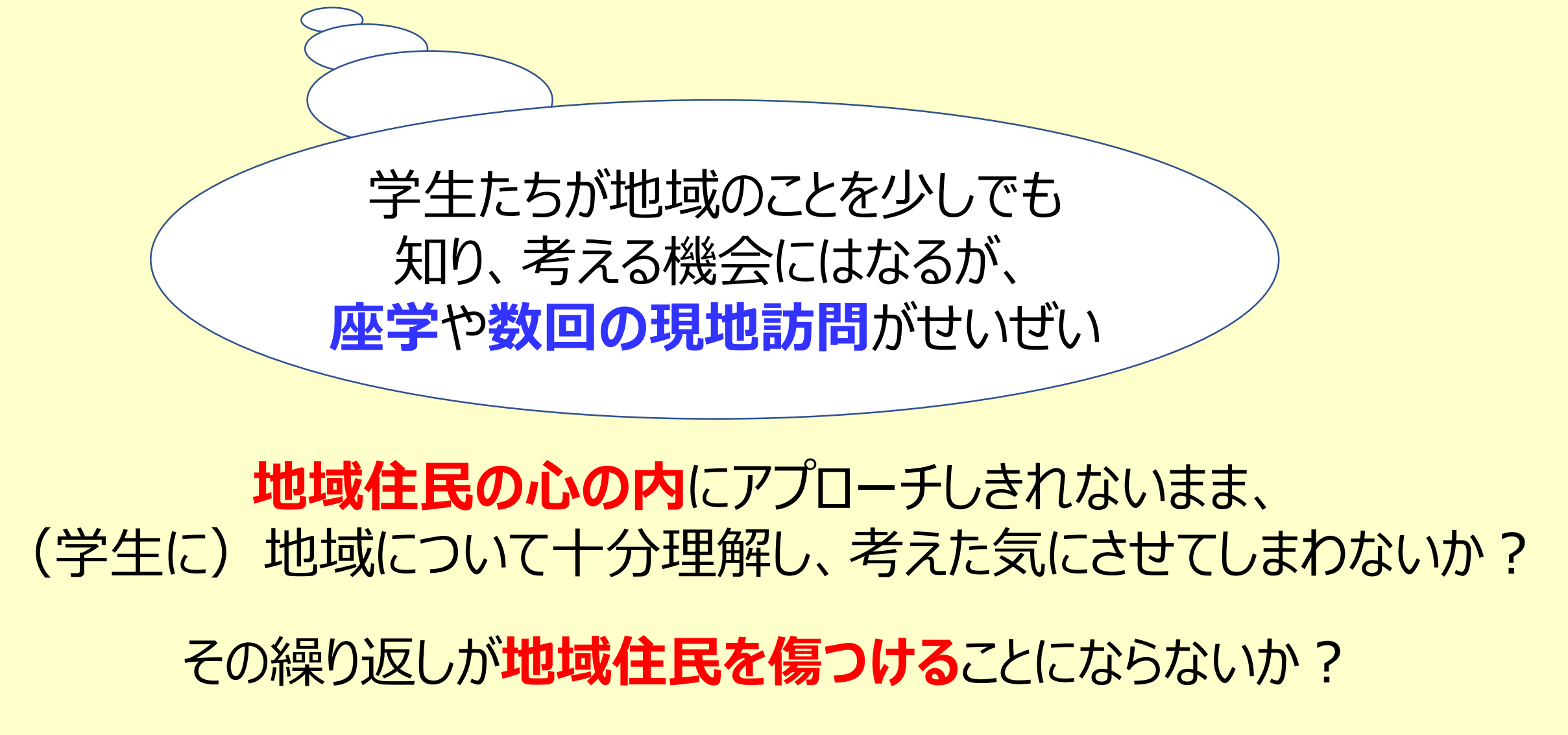
【問題意識①】

地域活性化のために「**地域の魅力**」を発掘し、発信すべき？ ← よく出てくるアイデア



【問題意識②】

学校教育という枠組みだけで、地域活性化に貢献することは可能？



【我々を受け入れてくれた農家さん】

- ◆ 吉岡 康仁 (こうじ) 通称：コメサンタ
- ◆ 1987年生まれ、300年続く米農家の17代目
- ◆ 大和町を活性化するため、同志を募って稲刈り体験やコメフェス(亀山神社での収穫祭)を開催
- ◆ Instagramユーザー名：komesanta_koji

【どうしても接近したかったこと】

地域の活性化は難しい、でも彼はそれに挑戦せずにはいられない
彼は**なぜ今の活動を始めたのか？**
彼は**何を望み、何に苦悩し、何を喜びとしているのか？**
尋ねても、ヨソ行きの答えしか聞けないかもしれない
農作業や農村体験を経験させてもらう中で**交流を重ね**、彼に寄り添うことで
少しでもそれを感じとれるようにしたい

12月：亀山神社



9月に行われる収穫祭「コメサンタフェス」のメイン会場
年の瀬も近いということで、境内や参道の掃除をさせていただいた

焚き火



テレビや漫画でしか見たことのない
焚き火の初体験
康仁さん・宮司さんと一緒に
おでんと焼き芋をいただいた
宮司さんは好々爺だ

1月：亀山神社



再び亀山神社
年始参拝の片づけなどをお手伝いさせていただいた

企画会議



康仁さんと昼食と取りつつ
今年1年間、大和町で取り組みたいこと・スケジュールを協議

2月：もち搗き



大和町で絶対にやってみたかったもち搗き
康仁さんのお父さんに搗き方やちぎり方、
丸め方を教えていただいた



この日のベストショット
康仁さんを囲んで親せきの集まりのよう

4月：ぶどう畑のビニール屋根張り



今年から大和町のワイナリーでぶどう栽培も体験させていただくことになった
ナチュラルワインをつくるそうだが、なぜわざわざ手間のかかるワインをつくるのか、そこにアプローチしていきたい



4月：キャンドルワークショップ



康仁さんは米ぬかの有効利用を模索している
その取り組みの1つが米ぬかキャンドルの事業化
この日はキャンドルグラス作りのWSを開いてくださった



田植え



康仁さんの友人ご家族に混じってみんなで田植え
毎年、泥の感触や重さが違う

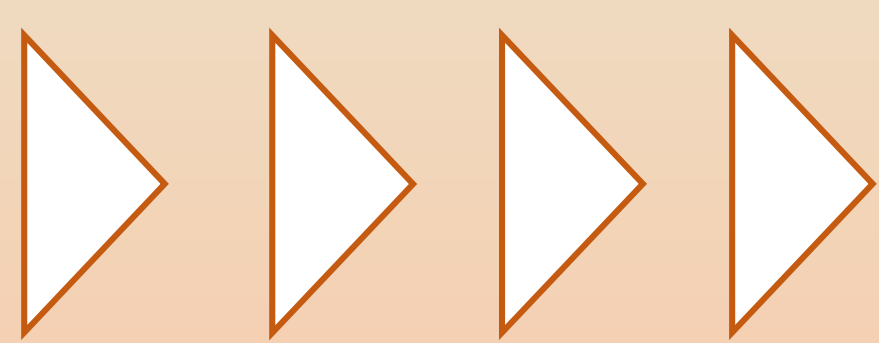


7月：ぶどうのつるの剪定



醸造責任者の新井さんは
葉っぱの色などからぶどうの健康状態
を読み取っているそうだ
簡単に肥料や水を与えてしまうと
強く育たないとも話っていた
(人間も同じだ)

康仁さん主催のコメサンタフェス
少しでも楽しい祭りになるよう
学生たちが主体的に企画・運営
のお手伝いをさせてもらっている



9月：コメサンタフェス(↓去年の写真)



今年は余興で本学のダンス部にダンスを披露してもらう予定
康仁さんの願いの1つは子供たちに楽しい思い出を作ってもらうことだ

コメフェス(↓去年)



今年は、ライスパーラーを使った餃子と
ワイナリーのぶどうを使ったかき氷を販売する予定
目下、夏休み返上でレシピを開発中だ

比治山学区社会福祉協議会 山口厚司・中田徹也 段原地域包括支援センター
広島市立大学 岩根典之(情報科学部)・山口光明(国際学部)

事業概要

この課題が比治山学区社会福祉協議会から提案されたのは、コロナ禍の終息が見えない2021年のことでした。集会所での行事が制限され、特に高齢者の交流の場が失われていました。地域ではオンラインでの交流も検討されたそうですが、多くの高齢者にとってデジタル機器の使用はハードルの高いものでした。そのような状況の中、いちだい地域共創プロジェクトへの応募を受け、比治山学区社会福祉協議会や段原地域包括支援センターの皆さんとチームでこの課題に取り組みました。コロナ禍の制限が徐々に緩和されていく中、対面とオンラインのハイブリッドを目指し、拠点となる集会所等のオンライン環境を整備してきました。3年にわたる試行錯誤やひろしまLMOの支援により9か所の集会所がオンラインで繋がる予定です。

1. はじまり

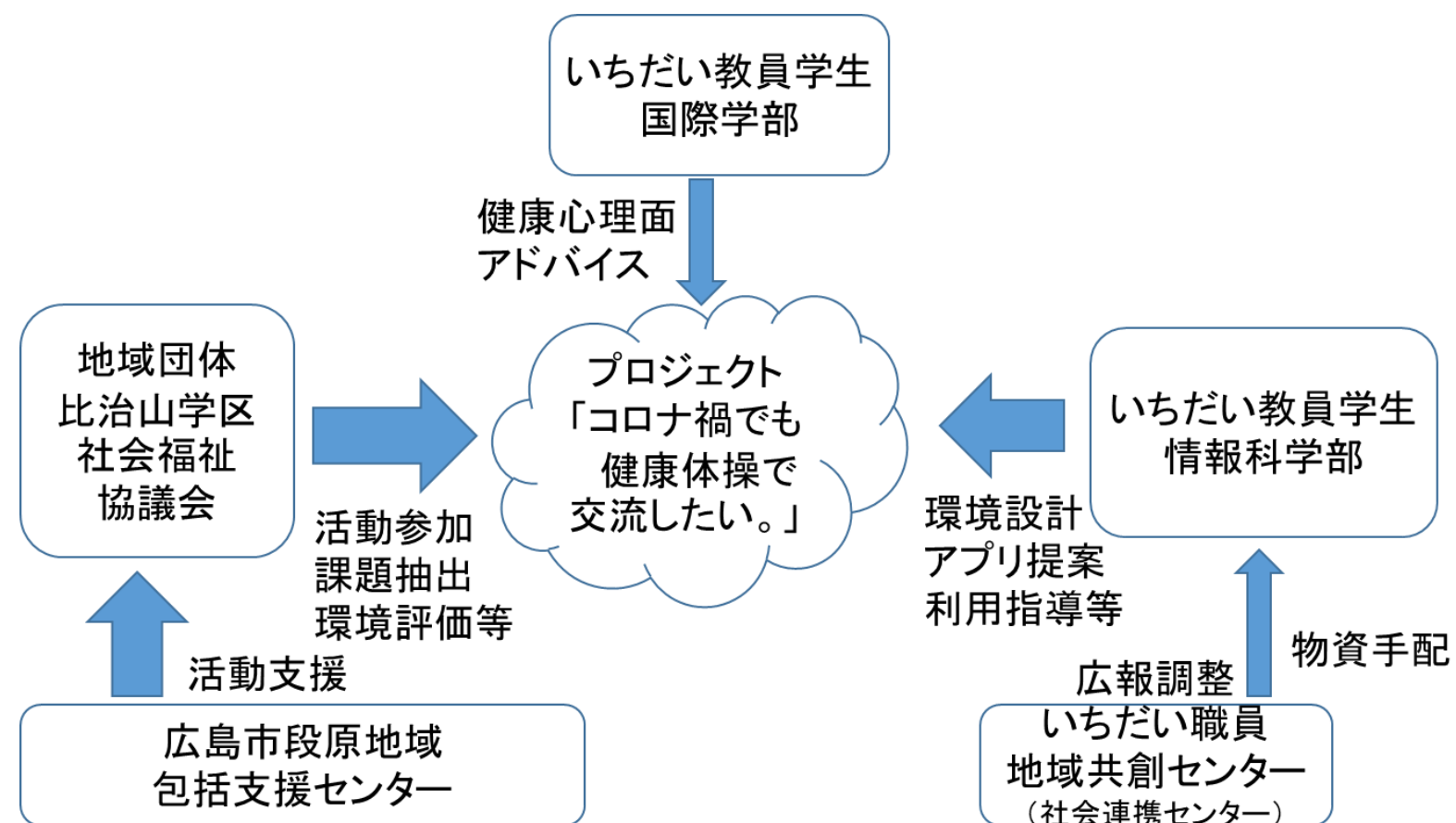
・当時の状況



出典 <https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/>

・プロジェクトの目的(目標)と役割

- 対面活動が制限されても健康維持の活動が持続可能な環境の在り方の模索
- 対面からオンラインまでカバーする楽しいハイブリッド環境の構築
- スマートフォンを活用できる高齢者の増加

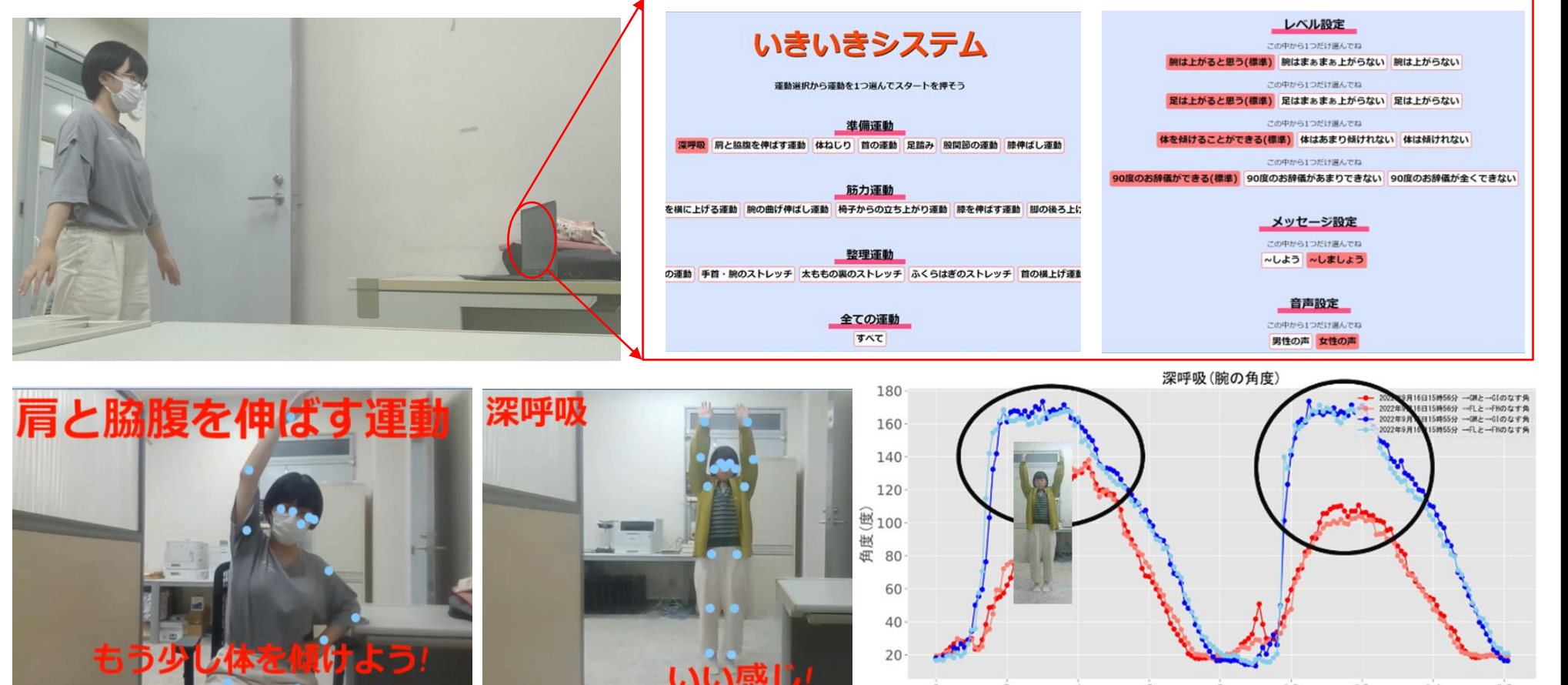


2. 取り組み（2022年度）

・オンライン環境の提案



・いきいきシステムの開発



3. 取り組み（2023年度）

・オンライン環境の整備



2023年度末現在、WIFI環境整備済み5か所(白抜き文字)

・体操自動配信システムの開発

いきいき百歳体操を予約してオンラインで自動配信できるシステムを試験運用しました。

・チーム応援システムの開発

集会所の方々がチームでいきいきシステムを利用できるようシステムの改良に挑みました。

4. これから（最終年度）

・ハイブリッド環境の活用

毎月、地域の方々がLMO会議を開催し、地域活性化に向けアイデアを出しあっています。

例) 脳トレクイズなど(東雲本町集会所)



例) ハイブリッド講演会(東雲本町集会所、霞西集会所、ほか)

第1回ハイブリッド講演会

日にち: 2024年8月21日(水)
時 間: 14:00~15:00
講演: 体操で健康と地域を育み「幸福感」を高めよう!
講師: 立命館大学スポーツ健康科学部 山平芳美先生
場所: 東雲本町集会所(講師と対面)
霞西集会所・東雲会館・東雲1丁目集会所(オンライン)
対象者: どなたでも、対面でもオンラインでも、集会所でも自宅からでも参加可能です!
Zoom接続情報: いつものオンライン体操の接続先
ミーティングID: 882 8955 7579
パスワード: 148186
共催: 比治山学区社会福祉協議会、段原地域包括支援センター、広島市立大学いちだい地域共創プロジェクト

・体操応援システムの開発

いきいきシステムと自動配信システムの統合、ゲーム性の向上、体操ガイドの選択肢(ピクトグラム、ビデオ動画など多様な表示法)



・おわりに(ひとこと)

地域共創プロジェクトの期間は1年のため毎年度申請してきましたが、継続3年までということで2024年度が最終年度です。しかし、オンライン環境は地域の持続可能な資源です。逆境にもあきらめず取り組まれてきた方々の活動は地域の誇りであり財産です。これからも継続して運営活用されるとともに未来に引き継がれてゆくことを期待するとともに祈り申し上げます。陰ながらいつもでも応援しております。

大学と一緒に教育・人材育成を！

産学連携教育

地域社会との積極的な連携による教育プログラムを設計しました。

地域の産官学で地域の将来ビジョンを共有し、産学連携で教育・人材育成に取り組みます。

産学連携教育の目指すところ

- 地域社会で、特に IT 分野で意欲的に活躍し、本地域の IT 利活用推進に貢献できる人材を育成する
- 大学の専門基礎力に加え、企業や自治体との IT を必要とする現場において実践的専門教育を提供する
- 企業に大学の人材を知ってもらう
- 地域・産業界が求める人材像を学生が知り、自らの将来像を早く描く
- 教育を通して、企業との共同研究に展開する

授業や講座をリニューアルしました

従来開講の産学連携教育の関連科目に加え、新たな 4 タイプの科目を設定しました。

- A 知る！**
地域課題、企業の課題やIT人材育成の必要性、またこれらの解決に向けた取り組みを講述する科目
- B 深める！**
地域教育や企業から提示された課題に対して問題発見型、課題解決型学習を通して、課題の背景調査や課題解決のプロセスを体験する科目
- C 実践する！**
地域課題や企業の課題解決の取り組みを企業等現場で体験するとともに、取り組みに関連するシステム開発などに参加する科目
- S 社会人(市民)向け
リカレント教育用講座**

		1年次	2年次	3年次	4年次
学部	専門		実践的 ICT 活用事例 課題解決型演習*	システム開発実践*	
			課外インターンシップ随時		
				技術者倫理 情報と職業 知的財産権	
学部	全学共通	広島・地域志向科目	地域課題演習* 広島の産業と技術*		
		キャリア形成・実践科目	インターンシップ・ベーシック キャリアデザイン i,ii	キャリアサポート ベーシック A,B	
研究科	博士前期		情報科学特別講義 プロジェクト演習 高度システム開発	*全学設定の地域貢献特定プログラム科目	
	博士後期		プロジェクト研究 情報科学特別実習		
社会人向		研究科（博士前期）科目（科目等履修受講）			

・色なし科目は従来から開講の産学連携教育関連科目 ・年次は想定対象学年で、上級年次学生も受講可能
・科目名は変更する場合があります